

令和6年度認定こども園北新庄の取り組みとその成果

令和7年3月25日 認定こども園北新庄

認定こども園北新庄では、園児一人ひとりが園生活の遊びや活動に興味・関心をもち、主体的に関わっていくことができるよう研修に努め、教育・保育を行っております。今年一年の取り組みを振り返り、全職員が自己評価を行いました。それぞれの評価結果を踏まえ、成果や課題についてまとめましたのでお伝えさせていただきます。

【取り組みと成果】

(1) 教育・保育の内容

・越前市保育研究会において、越前市全体で『主体的に遊ぶための環境づくり』を研究テーマに取り組んでいます。今年度、当園においては、さらに『試し



ができる遊び環境を』と具体的にテーマをもち、生活や遊びの環境を整えてきました。子ども達の「どうなるかな?」「やってみたい」「やってみよう」といった好奇心や探求心を大切に遊び環境を用意していくことで、さらに子ども達の興味関心が高まったり、異年齢で遊びを楽しんだり、遊びが充実していきました。また、昨年7月には、市内のこども園、保育園、幼稚園の保育者対象に、当園の公開保育も行いました。子ども達のワクワク・ドキドキする『試し』や『チャレンジ』ができていますと参加者から好評をいただきました。遊び環境の工夫が、子ども達一人一人の満足感や達成感にもつながっています。

・保健師や保育カウンセラー、こども家庭センターの相談員など、関係機関と連携を図りながら、園児の発達や育ちにに応じた関わりや『自分は自分でいい』といった自己肯定感を育む関わりを意識してきました。当園の子ども達は、一人一人がのびのびと自己発揮し、一緒に過ごす友達を同じクラスの仲間として助けたり励ましたりと、思いやりや優しさのある温かいクラスの雰囲気をつくりだしています。友達の良さにも気づくことができる子ども達に成長していることを感じます。



・全国保育士会作成の『人権擁護セルチェックシート』を活用した人権研

修や救命救急法、ノロウイルスを広げない嘔吐物処理の仕方、不審者対応など、消防士や警察官を講師に安全安心を目的に、園内研修を行ってきました。「子ども達に寄り添っているか」「子ども達の思いを丁寧に受け止めているか」自己の保育を振り返ることや命を守るための適切な方法を学び、日々の教育保育につなげています。



(2) 家庭・地域との連携

- ・今年、コドモンアプリを活用して、園の様子を積極的に発信することができました。写真を添付することで、今まで以上に子ども達の様子や幼児期の遊びの大切さを伝えることができました。
- ・自治振興の行事や手話教室など、地域とのつながりが深く、今年度は”つながる農縁”さんに夏野菜の栽培を相談したり、不審者避難訓練で日赤奉仕団の方と一緒にペットボトルのキャップで笛を作ったりと、活動の目的を共有しながら、活動を協働で行うことができました。栽培中の野菜が病気になった時には園児たちの方から「つながる農縁さんに聞いてみよう」といった声上がり、地域の方を身近に感じている様子が伺えました。



【課題】

- ・食育に関し、野菜の栽培においては子ども達の興味関心を深めることができましたが、0歳児から5歳児まで、各年齢において、保育者が『心と身体の健康と発達を促す意識』や『遊びを通して「食」への興味関心を育むこと』を他の職員と共有しながら食育活動を計画し、食育の目標である『食を営む力の育成、その基礎を培っていくこと』が課題です。
- ・小学校との交流や地域の子育て支援における連携など、「こどもまんなか社会」を目指し、小学校、公民館、児童館と今以上に、園から積極的に情報を発信したり、協働を図ったりしながら、つながりを深めていくこと。地域の相談機関として、在宅親子の子育て支援も大切にした活動を進めていくことが課題です。



【来年度の園経営、教育・保育活動における改善方策】

- ・食育のみならず、防災や子育て支援において、園全体で取り組んでいくことができるよう、保育業務のグループ化を図り、目的や目標を明確に、活動を計画していく。実施後や活動の実施状況を定期的に職員間で話し合いの場をもち、業務の改善を図りながら、よりよい教育・保育につなげていきます。
- ・小学校や公民館など、地域の関係機関と協議、協働しながら子育て支援活動を計画し、実践していきます。スムーズな小学校移行に向けて、幼児期の育ちを積極的に小学校へ伝えたり、小学校との交流の場をもったりしていきます。

